



国立大学法人

滋賀医科大学

令和3年2月15日

今年の春の花粉症は？

－小児から若年層に激増するスギ・ヒノキ花粉症とその対応について－

今年も春の花粉症の季節が近づいてきました。スギ・ヒノキ花粉症の患者は、過去20年間に急増し、現在10～50歳代の日本人の2人に1人が罹患し、特に5～30歳の小児から若年層で著しく増加しています。

滋賀医科大学耳鼻咽喉科学講座では、1999年から継続してスギ・ヒノキ花粉飛散数を測定し、ホームページで公開して翌年の花粉飛散予測を行ってきました。

花粉症の治癒が期待できる唯一の治療法として、2014年からスギ花粉、2015年からダニによる舌下免疫療法が開始され、2018年にその適応が小児にも拡大されました。

POINT

- ・ 2020年のスギ花粉飛散は、予測通り例年を大きく下回る少量飛散でした。2021年も過去の飛散状況と昨年夏の天候から、例年より少ない少量飛散と予測しています。
- ・ スギ花粉症患者の70～80%は、ヒノキ花粉症も有し、京滋地域では、スギ花粉は2月下旬から4月中旬、ヒノキ花粉は3月下旬から5月初旬まで飛散します。ヒノキは西日本で多く、関西ではヒノキ花粉飛散数がスギ花粉飛散数を上回っています。
- ・ スギ花粉舌下免疫療法のヒノキ花粉症に対する効果は50%程度に過ぎませんが、ヒノキ花粉の舌下免疫療法は未開発です。
- ・ 舌下免疫療法の新しい取り組みとして、スギ花粉とダニの併用舌下免疫療法を確立し、2018年から適応拡大された小児の舌下免疫療法の有効性と安全性を確認しています。

(詳細は別紙参照)

本件発信元

滋賀医科大学総務企画課 叶、岸

TEL : 077-548-2012

e-mail : hqkouhou@belle.shiga-med.ac.jp

ー小児から若年層に激増するスギ・ヒノキ花粉症とその対応ー

1) 大津市における過去 21 年間のスギ・ヒノキ花粉飛散数の計測と今後の飛散予測

2) スギ花粉舌下免疫療法の新たな展開（耳鼻咽喉科学講座の基礎・臨床研究から）

我が国におけるスギ・ヒノキ花粉症の有病率は過去 20 年間に急増し、現在は 10～50 歳代の日本人の 2 人に 1 人が罹患し、特に 5～30 歳の小児から若年層での増加が著しい。京滋地方ではスギ花粉が 2 月下旬から 4 月中旬、ヒノキ花粉が 3 月下旬から 5 月初旬まで飛散する。スギ花粉症患者の 70～80%は、続いて飛散するヒノキ花粉症も有し、スギ・ヒノキ花粉症は 3 か月以上の長期間にわたって患者さんの QOL や学習、労働生産性に影響を与え、莫大な治療費が費やされている。

スギ・ヒノキ花粉症が急増している最も大きな原因は、第二次大戦後に植林されたスギ・ヒノキが成長し、毎年大量に花粉を飛散させることにある。現在の日本の森林面積の約 4 割は人工林で、そのうちスギが 44%、ヒノキが 25%を占めるが、ヒノキの人工林は西日本に多く、関西ではヒノキ花粉の飛散数がスギ花粉の飛散数を上回る。今回のプレスリリースでは、我々の過去 21 年間にわたる、スギ・ヒノキ花粉飛散数の計測をもとに、本年度以降の花粉尘散状況の変化について予測し紹介する。

花粉症の治癒が期待できる唯一の治療法として、2014 年に標準化スギ花粉抗原を用いた舌下免疫療法の保険診療が開始された。それまでの注射による皮下免疫療法に比べて、自宅で行うことができ、アナフィラキシーショックの副作用がほとんどないことから、急速に普及した。2015 年にはダニ抗原による舌下免疫療法が導入され、2018 年にはその適応が小児にも拡大した。我々は、①スギ花粉とダニの併用舌下免疫療法を提案してその有効性と安全性を確認し¹⁾、②小児の舌下免疫療法に成人と同様な効果と安全性が期待できること²⁾、ヒノキ花粉の舌下免疫療法は未開発であるが、③スギ花粉舌下免疫療法のヒノキ花粉症に対する有効性は約 50%程度に過ぎないこと³⁾などを報告している。舌下免疫療法の作用機序についてはまだ不明な点が多いが、本プレスリリースでは、その臨床効果と免疫学的作用機序^{4)、5)}について、最新の研究内容をもとに紹介する。

- 1) 湯田厚司、小河由紀子、新井宏幸、他. スギ花粉とダニの併用舌下免疫療法の安全性. 日耳鼻 122:126-132, 2019.
- 2) 湯田厚司、小河由紀子、鈴木祐輔、他. 実地診療での小児スギ花粉症に対する舌下免疫療法の治療 1 シーズン目の効果と安全性の検討. アレルギー 69:909-917, 2020.
- 3) 湯田厚司、小川由起子、荻原仁美、他. スギ花粉舌下免疫療法のヒノキ花粉飛散期の臨床効果. 日耳鼻 120:883-840, 2017.
- 4) Kikuoka H, Kouzaki H, Matsumoto K, et al. Immunological effects of sublingual immunotherapy with Japanese cedar pollen extract in patients with combined Japanese cedar and Japanese cypress pollinosis. Clin Immunol 210, 108310, 2019.
- 5) Kouzaki H, Arikata M, Matsumoto K, et al. Dynamic change of anti-inflammatory cytokine IL-35 in allergen immune therapy for Japanese cedar pollinosis. Allergy 75:981-983, 2020.